

校長室より

第62号

「天空高き」



平成26年8月28日

## 姉妹校協定書に調印 ーカナダポールケイン高校ー

ポールケイン高校とは3月末に姉妹校の提携を結びました。さらに、活動内容・費用・保険等の具体的な事項に関して最終確認するために、英語科重岡先生と一緒にカナダのポールケイン高校を訪問しました。

7月28日(月)に日本を出発し、その日の午後2時過ぎにカナダのエドモントン市(アルバータ州の州都)に到着しました。(時差15時間)

空港にはknool(ノール)校長先生とMadse N(マディソン)副校長先生が出迎えてくださいました。その日の夕食は校長先生宅で、校長先生が自ら腕を振るって私たちをもてなしてくださいました。翌日もホテルまで校長先生自ら運転し、我々をポールケイン高校まで送り、校内を案内してくださいました。

緑に囲まれた美しい学校で、施設・設備も大変充実していました。右下の写真は第2外国語の選択で使用されている日本語教室です。どの教室も整理整頓されており、カナダではトップクラスの高校を自負しておられるだけのことはありました。

午後にはセントポール市の教育庁を訪問し、そこで副教育長を交えて最終的な話し合いを行い、晴れて姉妹校の協定書に署名をすることができました。

日本語版の協定書を次のページに掲載しました。来年度からは、本格的な双方向の長期・短期の語学留学をスタートすることができます。この提携が、両校の友好の絆を深め、次代の国際社会を担う人材の育成に寄与するとともに、日本国とカナダとの友好関係に貢献することを願います。



「足跡以外、残していくな。思い出以外、持ち去るな。」カナダ国立公園の基本ルール

## 高水高等学校とボールケイン高等学校 姉妹校協定書

日本国高水高等学校とカナダボールケイン高等学校は、両校の友好関係を確立するために、姉妹校として提携することに同意する。  
この提携が、両校の友好の絆を深め、次代の国際社会を担う人材の育成に寄与するとともに、日本国とカナダとの友好関係に貢献することを念願する。

### 姉妹校提携に基づく申し合わせ事項

#### I 目的

この協定書は、両校が日本とカナダ両国の親善に寄与し、国際交流活動の活性化を図るために、今後一層姉妹校関係を深めることを目的とする。

#### II 姉妹校活動内容

1. 両校の生徒並びに教職員の短期及び長期の相互訪問による交流活動。
2. 両校の生徒並びに教職員に恩恵をもたらすと思われる教育的活動、文化的活動、並びに諸課外活動を企画、奨励する。
3. Emailやインターネットを通じた交流活動。

#### III 費用

1. 相互訪問にかかる経費（航空運賃、保険料等の渡航費用）は、受益者負担とする。
2. 訪問する生徒は、原則としてお互いの家庭へのホームステイとする。ホームステイを利用する場合は、食費等は自己負担とする。
3. 企画された生徒の授業参加に対し、授業料の請求は行わない。但し、学校行事の参加費等については、生徒の自己負担とする。

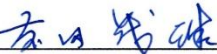
#### IV 保険

両校生徒は、それぞれの訪問に際し、各自海外旅行保険を掛ける責任を負う。

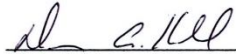
#### V 正文

本協定は日本語と英語で二部作成し、どちらも正文として認めることとする。

両校は2014年3月に結ばれた姉妹校提携の趣旨に則り、2014年7月29日にカナダボールケイン高等学校で行われた会談で、両校の代表により上記申し合わせ事項が同意されたことをここに確認し、署名する。



高水高等学校  
校長 前田茂雄



ボールケイン高等学校  
校長 Duncan Knoll



## カナダの自然と国民性ージャスパー・バンフ国立公園ー

29日に姉妹校の協定書に調印後、校長先生達は我々をジャスパー国立公園に案内してくださいました。

アルバータ州にあるジャスパー国立公園は、カナダ全体で42ある国立公園の中で最大の公園。広さは日本の福島県にも相当します。1908年に国立公園に指定され、今年で101年の歴史を持ちます。同じカナディアン・ロッキーの中にあるバンフ国立公園と並んでカナダを代表する国立公園です。

ところで、このカナディアン・ロッキーは、北米大陸を貫き4800キロも続くロッキー山脈の中で最も美しいといわれる地域です。

20世紀初頭、観光資源調査のためにスイスから呼ばれたアルペンガイドが「ここにはアルプスも20もある！」と言ったというほど、どこまで続くのかと思うような山並みが雄大なパノラマを描いています。

私たちは、標高1000メートルのジャスパー市の麓からロープウェーで一気に940メートルも登り、ウィスラー山(2464メートル)の山頂近くまで登山しました。途中雪渓(せっけい)があり、みんなで雪合戦を楽しみました。そして、そこから見渡す眺め。360度、見渡す限りにカナディアン・ロッキーの山々が続きます。空気が澄みきっていて、眼下にジャスパーの街が小さく見えます。また、氷河から溶け出した水で湖水がエメラルド色になった神秘的な湖、マリーン・レイクも。まさに、荘厳な風景が我々を圧倒しました。

昼食後、マリーン溪谷を見学しました。勢いのある水が細い溪谷を轟音(ごうおん)を立てて流れ落ちる様子は、見ごたえがありました。水の勢いで削られた岩が描く美しい曲線は、谷の荒々しさと対照的でした。



次に、ジャスパー市から南に車で2時間余り走り、コロンビア大氷原の入り口にある観光施設、アサバスカ氷河(ATHABASCA GLACIER)に着きました。

コロンビア大氷原は、総面積約325平方km、北極圏を除けば地球上最大の大氷原です。その中で約3%を占めているのがアサバスカ氷河で、全長約6.5km。奥の方は氷の厚さが310mもあるそうです。

そこからは、山頂を帽子のように覆う氷河(アイスクャップ)、山と山の間をハンモックのようにつないでいるアルパイン氷河、湾曲したサーク氷河などが、まるで巨大な映画のセットのように眺められます。大氷原の右手奥にあるアイスドームは、そこから太平洋、北極海、大西洋のそれぞれ3つの大海に流れる長大な川の発祥地(分水嶺)となっています。まさに地球規模の光景です。ただ残念なことに、氷河は大きく後退していることです。

最後に、今年の5月、このコロンビア大氷原のすぐそばに新しい観光名所ができました。その名も、Glacier Skywalk(グレイシャースカイウォーク)です。このスカイウォークは、サンワプタ谷の上約250mに建設されたガラス張りの通路です。その上を歩きながら、下を見れば目がくらむほどの渓谷が、目線を上げれば3500m級の氷河に覆われた山々を見ることができます。絶景な観光スポットでしたが、高い所が苦手な方には、ゆっくり楽しむことができないかもしれません。

観光を終えたのが午後8時。10時過ぎまでは明るいのですが、そこからホテルまでハイウェイを4時間走りっぱなしで、12時過ぎにホテルに着きました。Knool校長先生とMadesn副校長先生の疲れを全く見せないおもてなしの心とパワーには脱帽でした。まさに、彼らのルーツは、カナダの自然のスケールの大きさと美しさの中にあるのかもしれません。



拡大

